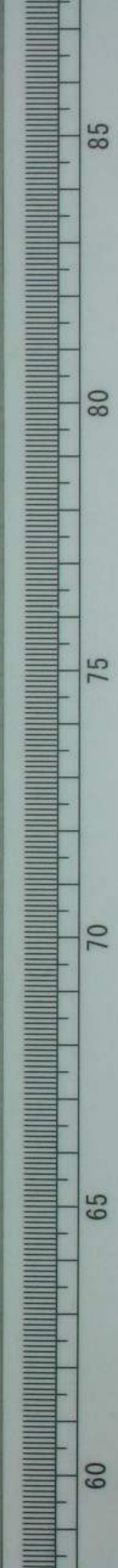




海外新話拾遺

四

西垣文庫
文庫10
6577
4





海外新説拾遺卷之四

乍浦海岸築臺場

此地は松江の鹽賣の船舶を招集し、諸物の
 交易をなす所なり。ことごとく古昔元の至正年百
 ありそきより明の太宗の時よりつゞきあつ
 け、倭寇を以てその由りけ外夷の侵犯を防がまじ
 りのいままも、人情の世となつて、海防より兵士
 を募り、常々この地よき、おろき、副都統といふ
 官人を置き、あつて、これを指揮せらるるといへども、二
 百年来の承平うちつゞき、人々武備を以て、



海外新説拾遺卷之四

唯々華美ある凡俗とありゆきあうづく乍捕
のごときハ諸國の商船ハこゝてその繁華といふ
をうりありこゝハ莫兵の勢まあり勇猛よ
して是でよ乍捕陣を攻落さんといきわひえ者
色バ北京より伊里布程商采あどいする歴々の
官人下向あり一ふまの此地の海客へあう
よ臺場を築まべしとの命ありその費もと
ちり莫大あまば乍捕の地ハ勿偏近在近々の衆
民へお意の用金といふを金さるありあり
まハ窮民ハ臺場築造の人夫よえらるる數千

人召上らる船持の糸もその子をうりわげらる
紹興府といふと海より石をつき乍捕一橋
上を運送せりその石巨大あまば石ごとよ敷る人
のあうをつい甲陸上よ習きあんとて年をお
り是をそののりもの日よはくあういど土とよ
あおもハ九事といふ乍捕城西の山のふもと
より海客まで往來陸續として寸地めえいする
わどあり去年冬よりこのことあまば人々皆後
よつらまやもままばちのうらうらよせし
休島せんとて官吏ハ其をといふいさうあう

海防新法
二

るものなまるときふはなはたけりくくろちあめく
 よつく〜気力とが〜まともが〜道徳と轉倒
 疲弊〜命とら〜の〜多うりまはて
 よ春もあうをあうよ近村の田圃とをあらや
 木のあ〜草花青々と〜公役よ身を委せ
 こ〜終をありもつとまの産場西洋風よまづ
 産〜とて北東よ為まるとと産の俄羅斯人を
 毎のま〜城を備よま移ま〜製法の
 法をその指標よま〜らものま〜城築の
 城よ精〜ま〜のとま〜十字農砲の玉筋よ

海防新法
 海防新法
 海防新法

ぶつ〜位置を〜大石を城の中より〜その
 下の土俵とを〜橋を〜とせとせ
 う〜や〜よつとあけその表面粘土とを〜塗
 む〜丸〜の數十の砲丸ありおつるといへども
 官易に破壊あり〜といへ〜りのこと
 く仕藩に大あるを場梅存の地形よ〜敵
 毒よ造り軍勢あり〜〜〜〜大
 砲を〜を〜試度ある〜とて伊里布よ
 り同知韋達申水師把統韓大業よ命とて右の
 砲を〜〜〜〜の産場よを

海防新法
 海防新法
 海防新法



海女親言打遺者之尸

のり八千斤の大筒たづなは強つよき火くわを筒つに筒つさき仰あふり
 うちりて多おほくその玉たまきまじくをまく連つぎ
 海中うみに飛とぶ。一の岩いわをうらうらりそまより
 吹ふきまをくるところの筒つを試し験けんする。一々
 何なにれをまじりてあり。里人さと曹福能そうふくといふ者もの
 このうきをて一首の詩を賦かせり

瞥見紅旗誠一揮礮聲動地凜軍威天
 地震蕩妖氛掃百萬蛟龍挾浪飛

匪徒乱妨事

無恒産者無恒心ふのえんちんきものふんしんとまことありる國家こくを
 兵革へいつらありておもひしきあり。形勢かたちの令まむ
 ありきざるはあつて庶民しやく業ぎやうをうらへし生計せい産さんは
 事欠ことととゆより無形むの徒亦た衆しゆ千人せん人にん黨たうとむ
 びこつてことあり。乱物らんをとりおとあふことあり
 是より人にんあ入りて婦女ふにょを誘いはる。財物さいをとり
 せしめありあふ。おのまかたに物ものをまきりて人にん
 の中ちゆうに限かぎりて中華ちゆうの事情じやうを内通ないするをあつて
 英國えいの恩賞おんをむかひてその事ことを暴逆ばうに

ざつとつらあ——此言あり。英吉利の兵官よりと
 はなれど——いふる。英吉利の兵官よりと
 きのものあり作備の地より信守とらるものあり
 このもの平生忠孝の心ありしうらうらふくまのあ
 りたるが近ごろ又とらうしあはれしうらうらふくま
 の英礼をあつ——とらあはれしうらうらふくま
 をあつしうらうらふくまの門より金銀珠玉おとびそ
 又の平生忠孝の心ありしうらうらふくまの器物までとら
 りく殉葬——は彼匪徒ハ——この正とらうら
 かりうきくは——おともよその墳墓とあらがき

埋りあるとこ所の財宝とらまるとる金——とて
 白昼に數十人お集りき——まづ碑石とら
 各々利手難と把——並時の石より王とらうらうら
 掘りあおびる——その樹堅固——とやうい
 ひ——とらうらうら——とらうらうらうら
 斧ともちき——とらうらうらうらうら
 つら信守が父の屍をとらうらうらうら
 の生志をまら中よ樹葉おきおあうらうら
 中よあるところの金銀財宝珠玉とらうら
 信守ハ父とらうらうらうらうら
 悲哀の情をうらうら

日を生くまよのびる日々墳墓よきつづく香や
 倍た一ま拜ま躍ませり今日こんにちもうるることありと六む也やく
 志こころを例たとひぬらぐ墓かみと拜ませんとしていりけりか匪ひ
 徒とらホ殺ころす人ひとおあつまりしむる父ちちの墳墓かみに
 あがきあがり物ものホもともととうういいせせるも様さまあり倍重じゆう
 いいままららししををややくく撃うつつ嘆なげ一ひとししももままくくままたたが
 直ただよよそのその現まへへももああららびび多たくくそそのその名なををいいて
 悲ひ泣なせり匪徒ひホもそのそのてていいををええててううままららささががああてて此
 杖ぼう中ちゆうはは葬まうりあるる人ひとの子こををああららるる一ひとししりりくく先
 刺さすするるよよううちちままててああるる死し骸がいととううままがが目めああるる

云いせせままあありり悲ひ悼たうせり倍重じゆうももああららししるるののああららししるる
 足ありり物ものあありり日ひ長ながめめ興きようつつよよりりままんんたたととああららししるる
 ままああららししるる父ちちのの屍しかばねとと茶ちや留りゆうよりよりああままいいりりままいいりり
 つつくくここをを倍た重じゆうののままつつはは杖ぼうととああららししるる土つち足あ
 のの手て足あをを踏ふんんどどととううららままがが倍た重じゆうハハ父ちちののららん
 徒とらホもああららししるるいいひひららるるハハ父ちちののららんんののいいひひのの匪ひ
 身み体たいををももつつくく土つち足あをを踏ふんんどどととううららままがが倍た重じゆうハハ父ちちののららん
 ととももいいてて割きららぬぬ備ひふふもも意いののいいららししるる父ちちののららん

屍ハ何カ〜
 匪徒ホ由ト〜
 由アリ〜
 志擲スルコトアリ〜
 此賊家メ〜
 其ク〜
 夫レ〜
 夫レ〜
 夫レ〜

烈女劉鳳姑事

烈女ハ劉鳳姑トシテ其ノ母ヲ〜
 孝心コト〜
 事ヲ〜
 年十九〜
 父母ノ〜
 して〜
 自浦〜
 女乱〜
 の〜
 あ〜

海内新話合遺卷六

いづれも即ち自由なるを極よつてありき
 父母もまたそのつらさをあまきくし看
 病一服の極のとすといふも風姑の病身風の
 上はあつたまんとをあそきあへて乱とさけ
 う他よやつて門戸をくくるといふ運命を天よ
 まつてくあのみが病あり病後以後ハ妻人
 上陸してこのとく病を帯びあせることあまき
 まつてもあまきとらひてまてらんをまらり忍怖を
 るとく病よ妻人あまき人別氏の門戸をおしあ
 まであつていとくといふあまきは風姑の父母を

とくへ繩をもつて両手を束結していづへうと
 つまきまきり風姑の病よあつて右のていをま
 りきまきまきと病もくトてあとなり追鬼父
 母を指んとまきまきまきまきまきまきまき
 病をまきはまきまきまきまきまきまきまき
 あつてあまきまきまきまきまきまきまきまき
 あつてあまきまきまきまきまきまきまきまき
 中よあまきまきまきまきまきまきまきまき
 て天子のあつて患難をさかんとはまきまきまき
 べき様子あり地よあまきまきまきまきまきまき



每小折告合貴卷四



洛文采言才選卷四

十

共入べきの種ありや しまよらうくく天^ち地^ちは
身^み成^な志^しのぶよりあらよのぐる^ら海^うきやうあり
志^しもとも天^{てん}子のわり地^ちよりることもとあり
あまの海^うき理^りありまづよの衣^い倉^{くら}をもつて身^み
をつてまき人^{ひと}ホよまつけらしと倉^{くら}のらちよ
志^しのび再^いなるよをくく^く数^た人の妻^い兵^{へい}入^いさくつて
物^{もの}倉^{くら}のあるをくく^くと改^かえあまらあると
いつくあししくく衣^い倉^{くら}ををざとくんとく
ときよ鳳^{ほう}姑^このやせく身^みをもつてせよあり
くろが実^{じつ}よ葉^は吹^ふけ焼^やの姿^{すがた}ま柳^{やなぎ}風^{かぜ}よりく

めるごきとといどもぞ烈^{れつ}のく改^かえ女^に貞^{ちん}木^{ぼく}花^か
のまぬありのまよとて^て兩^{りゆう}船^{せん}よりく^くるんが
ハ湘^{しやう}浦^ぼの舟^{ふね}をもむるをよりあり禽^{きん}歎^{たん}ひ
とくまの妻^{さい}人^{ひと}ホあよまらまらることあるべ
鳳^{ほう}姑^この容^{よう}色^{しき}美^み艶^{えん}あるをくく^くあちよあ
せまのりとまをいどめて^て菰^{こも}湯^ゆをおこあんとく
このとき鳳^{ほう}姑^こやさしくも妻^{さい}人^{ひと}よむらつてつびく
るハ先^{せん}刻^くくめとくともまひやうまのハまあ
のちまが父^ふ母^ぼありや^やあまび父母^{ふぼ}をこのと
ころへともあひまらあをまがをなぐくしま

うともよが命とてしるあまうともものぞこよまう
 身を離し絶く父母をつまきまういま入とら
 よ二人の妻入門をいぞりづこへうゆくとこへ
 がまあつち風姑の両腕を心前のどくくあまを
 結くつまきこまううて親子泣きおさるよ
 り悲憤のあまきせきあげく志をーことを由
 ありらる妻人ホうううよあつくその体奴
 又いりーがまあつーゆまて風姑を抛んとま風
 姑入るでよ心中よあつー必死と覚悟な
 りらま何り名怖まあまいまの妻人よむらぬ汝

禽獸よくもきけ余婦女子ありとて人倫の逆平
 子中華の地よむまきありいうさう海おがくちよ
 何辱をわめむる禽きやとさる声よの志りらるよ
 妻人刀をぬりく風姑の喉よまーあて程も抛ん
 とせらふとき風姑をあもそのうて命の刃をまよ
 あまうらうらう喉をさーとらー死ーしりなる
 父母ハそのありさまをえてまうるんとまきまども
 両子の未結解べきやうあむあー悲憤の
 あまよよまづらううて妻人ホハ風姑の死
 あまよよつーたよのぞをうーあひらのうら

海夕葉言才文書不日

父母を志をりおくとも詮ありとてそのあをを
 まじづらうと立さまりあつて父母のうきまじりのち
 をたえり直に風姑の死骸よりびきつきたるあや
 息のうきまじりと種々の業障をあへりまじこれ
 収抱ありまじきまじつひまじの切あつて逝ぬ
 實に惨あることまじありとのうきまじの愛乱まじ
 つて負そのまじつとつてまじの婦女割心殺らぬ女
 割外お割若金の妻顧氏胡成慶の女杜義茂
 の妹のごときまじつとつて大まじの弱まじといまじ
 そのま跡分明に知るまじおまじのまじ惜へまじのまあり

皇侄奕山進發事

明は道光十一年の春正月皇帝朝殿よ
 空海あり諸大長よおつてのまじのまあり
 るに近に英妻の兵勢まあり猛勇あり
 て退却せしむるまじのときありまじよ伊里布
 騎岩おの大長よ命とつて江原省のまあり
 へ下向せしむるまじのまありまじのまあり
 よお怖し畏避退怯のまありまじのまあり
 あり山の兵器のまありまじのまあり
 進發の機をまありまじのまあり

海外華言抄遺書卷四

十二

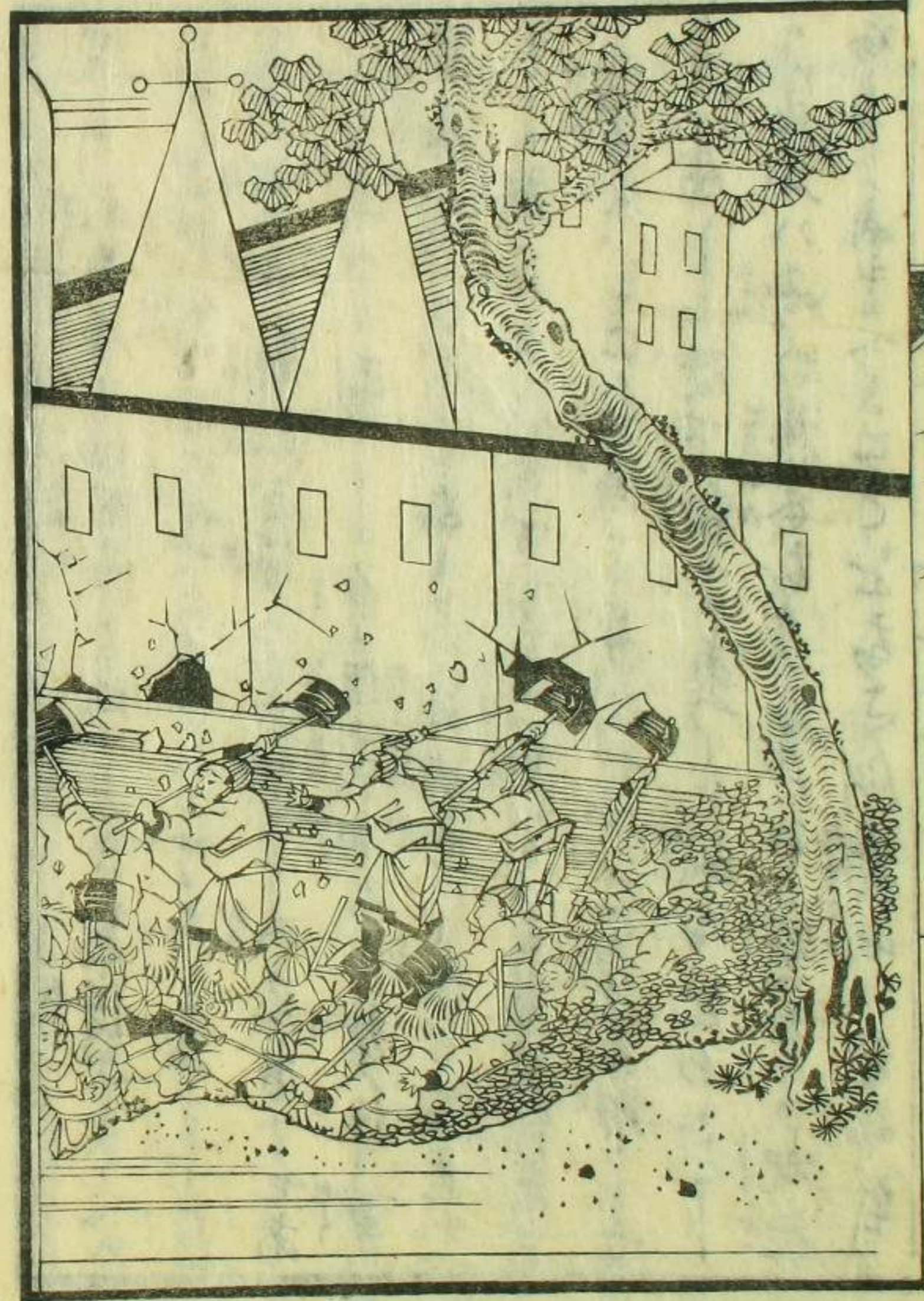
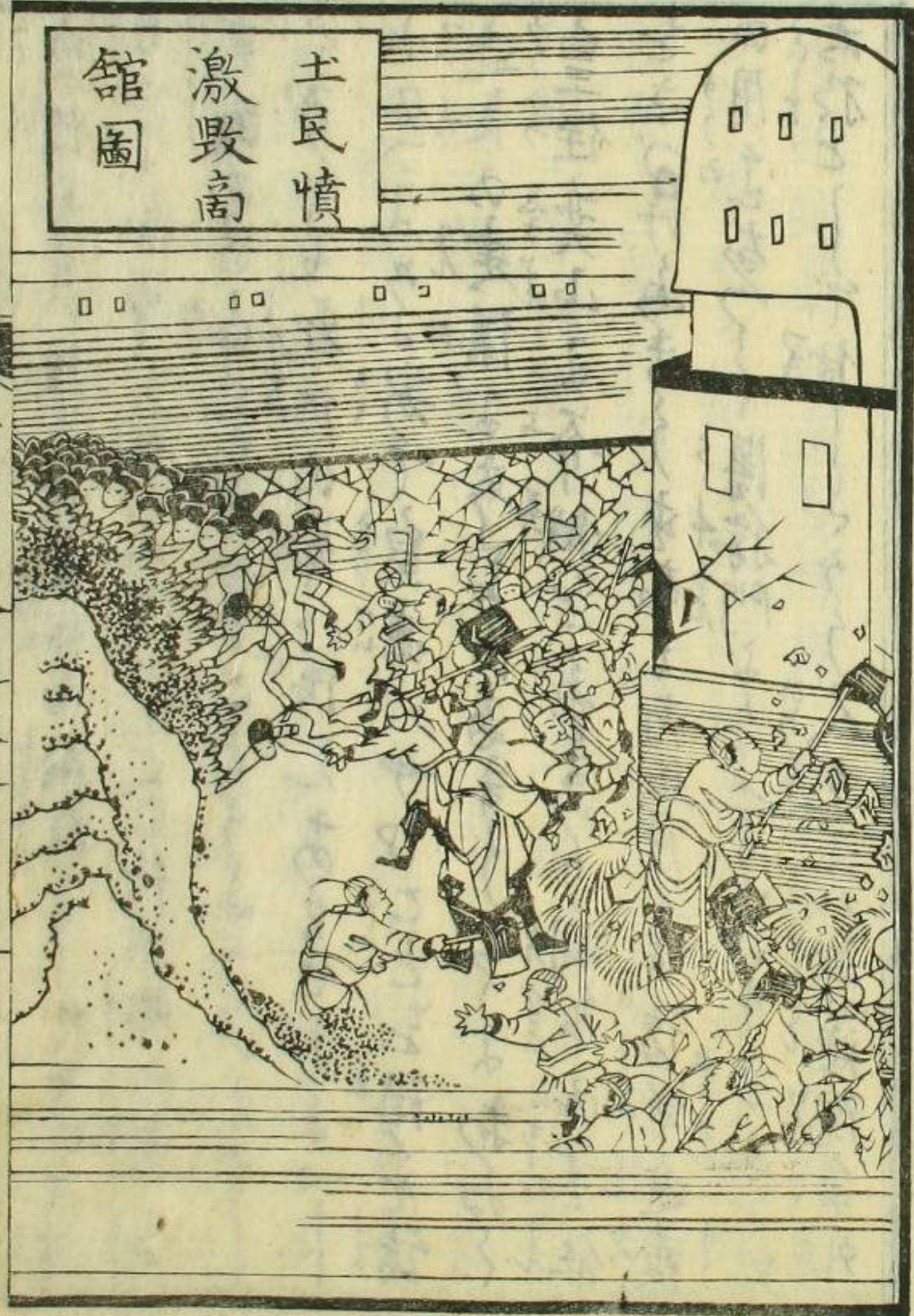
ひそりよ英事よ自兵あるおのこことあげて
 嘆かば兵えんや將師あるものうくのござ
 ありんば士率いうせり号令をよめる角き百
 方義の將士ありといへども首尾無措の
 いきわぬあきよあつてむあつてその身
 をもつて大砲の下よりあつて色そのゆ
 動をあつてことを好むらんや東南海
 邊の土民お兄貴妻子四方よ離散し居業
 ととらるものありつての匪徒お黨を
 おもんぶ村を掃掃し婦女を淫し

敗物をころむはひとりその獲獲一口と
 やむとまてあつていま候家来の君とあ
 り坐がく座敷の茶毒を又るよ志の
 びあつてつて意を決し候あつて備民
 の勇兵五万人をひきひつて送参成
 候候せんと候地おぬよあつて幼主を
 係信しその政務りあつてこととあ
 して可なり候兵をひきひつて園毎よじが
 るより八送参の最座をこりて一掃成
 よあつてまが決してあつてびまてと

ある奮りしむとありしきば建良ハこそは
て大に驚愕せり皇帝由とあり勇決果
断の性變りまじくいんや今日遂に
征伐ありあまはるるハ
いうある危急の場といふともさき城さけ
諸軍の先あつて進軍をとげあまはるる
必定ありしむるときは火炮のありしむ
を接應あまはるるさき奮りしむまづい
てこの義とありあつてまづとて建良
ともよことを陳してしむる前諸君ハ向

也一大臣おそのおのりしむを得ざるハ
こそを刑罰よませらるる可ある處一
あは英兵親征の義ハまじく是れあまはるる
つとまはるる處一皇任奕山こそ多計勇
畧並備ゆことありしむ大將を令せらるる
まは満員の兵五万を付屬せらるる奉
る要義その兵威は厚伏せんこと日と期
まはるる陸下朝はあつて政治をわたり
あまはるる八面の根本ありしむ容易し親征
ありあまはるることをあまはるる奕山ハ

再入新合書卷之四 十五



皇任ありバ陛下の親征由同松よりてその兵權
ことよおしくおゆるし給ふとて此の將士奮發
死闘その命を用ゆることうらぐひたか
らむく由親征の義ハ啓元あるをあるべし
とのべよる期て皇帝ハやむことを得て諸
近臣の建議もあつていよいよおゆるし
皇任 奕山よ斧鉞をよますり 國年の重任
をさづけあまうしをあるち正月十日 諸軍進發
の用をいあつて得御門よりさういふを 奕山を総
大將として付しつてうらぐひるハ理藩院員外

郎 西拉泰 候選員外郎 知府 銜福奎 兵部筆
帖式 慶福 戸部員外郎 穆騰額 御前侍衛 珠
勒 三等待衛 德崇 額乾清門 二等待衛 岳
松 額 三等待衛 德示 格勒正口 旗 二等待衛 忠 太 正
黃 旗 三等待衛 巴 揚 阿 及 び 布 將 海 粘 杆 慶 藍
翎 侍 衛 福 明 廂 黃 旗 委 護 軍 參 鎮 那 瑪 善 徒
營 前 鋒 校 擒 住 副 前 鋒 海 通 前 鋒 慶 瑞 大 畧
營 烏 鎗 護 軍 校 舒 忠 穆 烏 鎗 藍 翎 長 英 勒 根 小
諸 人 あり 名 々 揚 員 由 勇 岳 を 引 率 一 旗 旗 長
よ あり 甲 曹 日 よ 切 ぐ せ 連 上 の 列 級 子 里

皇任新合書卷之四

十一

あることを志し、せりと勇々しくぞ見へよらる由
 つとも進^{しん}護^ごの時よあつて皇帝より右の諸
 將^{しやう}より當^{たう}座^ざの母^ぼ考^{かう}とて五百兩あるひに二百兩
 まつて百兩そあつて官^{くわん}のさる下よまつてつて黄^{わう}
 金をさめまらる^{きん}琦^き咎^{たう}ハ廣東より北京へ召^{めい}還^{えん}こ
 せその友^{ゆう}隊^{たい}をせりあげらるおもき刑^{けい}罰^{ばつ}成^{じやう}
 うおむり伊^い里^り布^ふハ退^{たい}怯^{きやう}の罪^{つみ}よりつて雙^{しやう}賊^{ぞく}
 花^か翎^{りやう}とつて既^き冒^{ぼう}の友^{ゆう}隊^{たい}をせりせりてらる^{しやう}賊^{ぞく}
 大學士とつて友^{ゆう}壽^{じゆう}とハあまき志^しをせよもある^{しやう}浙^{しやう}
 江^{かう}よりとまつて軍^{ぐん}勢^{せい}のこを督^{とく}順^{じゆん}をせよ

ふりありなり

廣東九十餘鄉村民憤怨起兵

四月朔旬友軍逆將義律と和睦あり一より
 ハ友^{ゆう}兵^{へい}の勇^{ゆう}気^き日^{にち}下^げ消^{しょう}ト英^{えい}夷^いの狂^{きやう}暴^{ぼう}あり
 をあまき一々^{いちいち}廣東^{くわんとう}の商^{しやう}館^{かん}ありて英^{えい}夷^いの
 子^こをとりその館^{かん}の^をおおく諸^{しよ}物^{ぶつ}成^{じやう}交^{かう}易^いする
 ごとく^{ごとく}の^をめ^めの^をごとく^{ごとく}なるよ^よ屋^{おく}敷^{しき}の^をもちあへ
 近^{きん}村^{そん}近^{きん}郷^{かう}の^を去^さる^を入^{いれ}一^{いつ}揮^ひ女^{にょ}を^を淫^{いん}
 うをせその私^し娼^{かう}の^をせると^と後^{のち}あり^{あり}一^{いつ}強^{きやう}盜^{たう}の^を
 諸^{しよ}大^{だい}將^{しやう}ハ城^{じやう}門^{もん}よりあつてそのありとる

といへども元来英妻の兵勢はお怖くしてこそは
制止せざるごとくありしを我も承りて候
此の土表亦英妻の多めお惠官をうくるを
おあつまつし
城内は元来英妻の兵勢ありといへども
その什畧をまつし英妻をおいそむは
静穏に帰せしむるおあつまつし
去月亦亦英妻をとりてこそは
仁来し將軍揚芳の命あつて候るよ
おあつまつし

是雅有く夷人をとりまがせりとの
臣はるるとは後の高徳への
のこむらちら後を
をつつし
三元里西村南岸九十余郷衆
為不共載天折言滅英妻
犯

天朝昔攻沙角砲臺戕害兵我
皇上深仁厚德不思加誅且示懷柔彼
尚不知感恩包藏禍心深入重地施放火

海防新書卷之四十一

箭殘官居民及及城池日無大憲
 欽差大臣見城鄉內外遭殃是議息兵
 安民設夷理宜得是好意當即仰体
 憲仁豈料貪心不足得尺進寸不知輸服
 益且縱容兵卒擾亂村庄搶我耕牛傷
 田禾壞我祖坎淫辱婦女鬼神共怒天地
 難容所以我等奮不顧身困義律于北門
 斬百麥于南岸汝等逆党試思此際若非
 我府尊為公解圍汝等逆党其能保首領
 下船乎今聞尔出示當途罵

天憲無功揚言于衆搥要代百麥伸冤視
 我此地如無人殊堪髮指是則飽德之義士
 彙取兵餉荷鋤之農夫操戈禦敵糾集
 壯勇數十萬何懼英夷之義律不可前除
 我等水戰陸戰兼能豈怕夷船堅厚務
 俟鬼子無隻身存留鬼船無片帆歸國
 尔等毋得逃避不日交戰合行預示知悉

時諭

此告文を由つて英艦を投ずるといふも英夷
 ハこそ我艦自視してしつゝの農長も彦言と

ちきりぐさともあやむれどのことさう仕りて
 場肉のね士としくとも敵軍よのそんでこまを
 砲のまじりようちあおれとまらあへく
 追撃せ
 むいま村衣おと怖
 さくらその用をせむ
 ありらるが九十余村の
 土衣の日を形
 おあつたり
 各々斧取の
 ひまよよとろく
 英事の高鼓
 おお
 英事ハこまよおど後まその敵の口をうく
 内より
 村衣ハ斧取を
 あけて外よりその鼓を破壊
 そのと後より

のりんとまらまハ英事お後砲をまめの
 ごとく
 ちをあらとしくとも
 ハ
 死人のうん
 英事
 筒先の
 今武ハ斧を
 奮發
 白事
 十人
 虎門
 英事

りとくよおわくくみ^{きん}富のまもも^{きん}館門よ志のひ^か飛
 る^い妻人ありやとさう^かこととさう^りるるよはま
 一人ものころの由のあ^い一^かは^い布^いあ^いのりつ^いま
 あ^いと^い後^いの^い産^い物^い山^いの^いこと^いつ^いと^いあ^いく^い人^いあり
 う^いつ^いま^いづ^いこ^いう^いよ^いや^いさ^いを^いけ^いさ^いひ^いぐ^いく^いや^いま^いを^いい^いひ
 その^い粟^い窟^いを^いま^いい^いの^いむ^いな^いぐ^いと^いと^いと^い後^いく^いよ^いま^いを^い
 う^いけ^いあ^いう^いし^いの^いあ^いし^いち^いつ^い風^い力^いを^いげ^いま^いよ^いの^いつ^いく
 そ^いの^いや^いし^い時^いよ^い中^いへ^いあ^いぐ^いり^い金^い根^い物^い障^いを^いあ^いつ^いく^いか
 ぶ^いき^いる^いと^い後^いの^い高^い鼓^い響^い時^いの^いあ^いよ^い灰^い煙^いと^いあり
 あ^いく^いう^いへ^いつ^いあ^いる^い物^い一^いと^いて^いの^いころ^いも^いの^いあ^い一^い依^いて

英^い妻^いお^いは^いふ^いと^いか^いら^いの^い館^い内^いよ^いし^いと^いり^いと^いか^い食^い
 物^いハ^い中^いち^いろ^いん^い飛^い位^いの^い場^い中^いな^いま^いよ^いあ^いつ^いく^いあ^いち
 本^い船^いへ^いの^いつ^いく^いり^いぐ^いく^いと^いも^いあ^いく^いく^いち^いき^いり^いぞ^いま^い
 き^いぬ^い今^い我^いの^いころ^いま^いは^い実^いよ^いや^い一^いあり^いなる^いこと
 と^いも^いあり^い

りてよおわくくみ^み力^{ちから}のまもも^も館^{かん}門^{もん}よ志^しの^の尾^お

海外新話拾遺卷之四終

早稲田大学図書館

011488465874